

県立高入試英検加算見直し

「加点級各校で選択」

県教委意向 6月県会で議論へ

県立高一般入試の英検加算制度の見直しを巡り県教委は12日、検討していた3案のうち、英検準2級以上の取得者に5点を加えるか、3級以上に5点を加えるかを各高校が選択する案で見直す意向を県会各会派に伝えた。19日開会の6月県会の議論を踏まえ、7月の県教育委員会の会合で正式決定し、8月に2019年度入試の実施要項を発表したい考え。

(小林真也)

最大会派県会自民党の斉藤新緑会長は福井新聞の取材に対し、英検による加点はなお反対としつつ「加点幅が15点から5点に縮まったことは、県の意見に従ったものと判断する」と述べた。県会が中学校で習わない内容を含むと指摘している準2級以上の加点については「6月県会での議論を見守る」姿勢を示した。県会が加点制度の見直しを求

めているが、見直し自体に議決は必要ない。県教委は選択案のほか▽準2級以上に10点、3級に5点を加点▽3級以上に5点加点の案を検討。11日の県教育委員会の会合では、教育委員5人全員が準2級以上への10点加点案を「生徒の英語力を伸ばす動機付けになる」などとして支持したが、県内公立中学校長の過半数が加点級の選

択案を支持していることなどから、選択案でまとまった。県教委による県会各会派への説明では、県議から「3級への加点が譲歩できる最大幅」「英語を話す力は英検ではなく内申書で評価すればいい」といった意見があったという。

県教委は▽英検実施法人は準2級までを中学校での目標例としている▽現在の中3生の23%が既に3級を取得しており、今後は準2級を目指すことが考えられる」と説明。準2級への加点を選べる高校の目安として▽18年度入試で受験生の8割超が3級以上を取得し、4割超が準2級以上を取得している▽国際科があり高い英語力がある生徒を求めている――を挙げている。